

平成 23 年 5 月 27 日  
 水道・交通委員会資料  
 交 通 局

## 東日本大震災に係る交通局の対応について

### 1 交通局災害対策本部会議の設置

地震発生後直ちに交通局災害対策本部を設置し、地下鉄・バスの運行状況等の確認や今後の対策を検討するため、第 1 回交通局災害対策本部会議を午後 4 時に開催しました。以後、約 1 か月にわたり、合計 39 回の本部会議を開催し、交通局をあげて組織的な対応に努めました。

#### 【災害対策本部会議決定内容】

- ・地下鉄施設の被害状況確認、バス運行に際しての道路状況等確認と運行指示
- ・地震発生日の地下鉄・バスの終夜運行の決定
- ・地下鉄・バスの運行計画の決定（計画停電時の対応を含む）
- ・運行等に関する広報内容 など

### 2 災害発生当日の地下鉄・バスの運行

#### (1) 当日の状況(3月11日)

午後 2 時 46 分	地震発生 地下鉄の震度計（新羽駅）が震度 5 弱を感知 総合司令所よりお客様の安否確認と地下鉄全列車発車待ちを指示
午後 2 時 55 分	バス一斉無線にてお客様の安否確認、道路状況確認を指示
午後 3 時 20 分	バス全車運行停止を指示
午後 6 時 45 分	バス運行再開(信号不点灯、津波影響のある 31 路線除く)
午後 7 時 30 分	地下鉄ブルーライン線路内点検中に第三軌条脱落を確認
午後 9 時 50 分	地下鉄・バスの終夜運行実施を決定
午後 10 時 35 分	地下鉄ブルーライン第三軌条復旧作業完了
午後 11 時 15 分	地下鉄運行再開

#### (2) 地下鉄の運行再開までの取組

地震発生後から順次、ブルーライン及びグリーンラインの駅やトンネル等の施設、線路、電気設備、車両基地の巡回点検を開始し、点検・復旧作業終了後、ブルーラインは午後 11 時 15 分に、グリーンラインは 11 時 19 分に運行を再開しました（終夜運行実施）。

終夜運行実施本数：81 本

乗客数（推計）：約 24,000 人

### (3) バスの運行再開までの取組

地震発生後直ちに、お客様の安否確認を行うとともに、安全な場所へ車両を停車して、安全運行を第一として道路被害状況、信号停電状況等の確認を行いました。

営業所職員等による道路状況等確認後、停電により信号機が不点灯となったバス路線及び津波警報発令による沿岸部の一部バス路線を除き、午後6時45分運行を再開しました（終夜運行実施）。

なお、翌日以降は通常ダイヤで運行しました。

終夜運行実施便数：74 便

乗客数推計：約 1,100 人

## 3 計画停電にともなう対応

東京電力の計画停電の実施にともない、地下鉄の運行及び道路上信号機の不点灯によるバスの運行に一部支障が生じました。

### (1) 地下鉄の運行

運行ダイヤ

ブルーライン      グリーンライン

3月12日（土）			土休日 ダイヤ
3月13日（日）	土 休 日 ダ イ ヤ		
3月14日（月）			平 日 ダイヤ
3月17日（木）			
3月18日（金）			土休日 ダイヤ※1
4月3日（日）			
4月4日（月）			特 別 ダ イ ヤ ※2
4月4日以降			

※1 グリーンライン  
関東運輸局から運行本数を減とするよう要請があり、土休日ダイヤに変更

※2 特別ダイヤ  
日中の運行本数を減らし全体で平日の90%の本数となるよう設定したダイヤ

計画停電実施により、地下鉄を運休する事態が発生しました。また、地下鉄変電所の切替作業等のため、運転見合わせが発生しました。

#### 【運休】

3月14日    グリーンライン全線運休（午後3時10分から6時37分）

停電した変電所：川和町変電所、センター北変電所

バスによる代替輸送実施（中山駅～センター南駅間）

3月17日    湘南台駅～上大岡駅間運休（午後4時45分から7時20分）

停電した変電所：下飯田変電所、舞岡変電所

バスによる代替輸送実施（上大岡駅～上永谷駅間）

### 【運転見合わせ】

3月14日から3月22日までの間に10回実施

(最大30分間 3月16日午後3時55分から4時25分まで)

運転見合わせ区間：ブルーライン全線

### (2) バスの運行

計画停電の実施により、市内各所の交差点で信号機が不点灯となり、交差点を最徐行して運行しました。

特に若葉台営業所所管の4か所の交差点においては、バスが右折する際に危険な状況が発生することが想定されたため、営業所職員や警備会社社員による誘導案内を実施して運行しました。

### (3) 節電の取組

	取 組 内 容	
地下鉄 車 両	運行本数の減	3月14日から現在まで
	車内空調「停止」(送風対応)	3月25日から4月28日まで ※4月29日から現在まで車内空調全車両を「弱冷房」(28度設定)
	車内客室灯一部取り外し	3月29日から現在まで
地下鉄 駅 舎	エスカレーターの一部運転停止	3月14日から現在まで
	駅舎内照明の一部消灯	3月14日から現在まで
	電飾看板、自動販売機消灯	3月14日から現在まで
営業所	事務所及び構内照明の一部消灯	3月12日から現在まで

【取組の効果】(4月1日から4月30日までの前年同時期比実績)

地下鉄車両 ▲ 6.7% 地下鉄駅舎 ▲31.5% 営業所 ▲30.4%

### (4) 今後の節電の取組

今夏の電力不足対策として、これまでの取組に加え、次の内容に取り組みます。

	取 組 内 容
地下鉄 駅 舎	駅舎照明を蛍光管からLEDに交換(約2,300本) (駅舎の蛍光管約7,000本を今後3年かけて交換)
車両基地	上永谷車両基地照明を蛍光管からLEDに交換 65灯(屋根改修時に実施)
営業所	車両修繕工場照明を水銀灯からLEDに交換 36灯

これらの取組により、経済産業省が定める「電気事業法第27条に基づく使用制限(緩和措置)」を遵守できる見込みです。

【参考】経済産業省からの電気事業法第27条に基づく使用制限(緩和措置)

・7月1日から9月22日までの12時から15時の削減率15%

その他の時間帯の削減率0%(鉄道事業者)

## (5) その他

計画停電の実施は鉄道の運行に支障が生じ、また利用されるお客様へも大きな影響があることから、3月18日に市長から東京電力へ計画停電の実施について、交通機関を対象除外とするよう要請を行いました。

また、交通局としても国土交通省を通じて、計画停電の対象除外を要請するなど、少しでも早い時期の通常運行を目指し、取組を進めました。

## 4 災害派遣の支援

横浜市職員、神奈川県職員等が被災地へ応援として派遣される際の輸送について要請を受け、バス車両の提供及び運転手、車両整備士の派遣を実施しました。

### (1) 横浜市職員の輸送（仙台市へ応援職員を輸送）

#### 【輸送実績】

3月14日から5月9日までの間に15回の輸送を実施

派遣車両数 合計 26台

派遣職員数 合計 93名（指揮者17名 整備士24名 運転手52名）

### (2) 神奈川県職員等の輸送（石巻市へ応援職員を輸送）

#### 【輸送実績】

4月4日から5月16日までの間に7回の輸送を実施

派遣車両数 合計 19台

派遣職員数 合計 59名（指揮者7名 整備士14名 運転手38名）

## 5 地下鉄構造物の被害

3月12日に地下鉄運転士が新羽駅から仲町台駅間の一部で線路の歪みを発見したため、列車の運行を止めて施設の点検を行ったところ、橋脚1基がわずかに傾斜していることが分かりました。列車の運行に支障はありませんでしたが、大きな余震等の恐れがあることから、徐行で運行を再開することとし、直ちに軌道の整正と橋脚の緊急補修に着手しました。現在は緊急補修を終了し本復旧に着手しており、7月には本復旧を完了する予定です。

また、隣接する橋脚1基も同様の傾向が見られるため、この橋脚についても応急対策を実施しました。現在徐行運転を継続していますが、10月までに本復旧を完了する予定です。

歪み発見直後は詳細が判明するまでセンター北駅から新横浜駅間を運休し、バスによる代替輸送を実施しました。

(当該橋脚の写真)



## 6 収支への影響

地震発生後から3月末までの間において、信号機不点灯時の警備会社への誘導案内業務委託費用など、震災発生による新たな支出が約4,700万円発生しました。

このほか、収入面においても観光バスの予約キャンセルやバス・地下鉄の広告出稿キャンセルなど約1,000万円の減収となり、22年度収支への直接的な影響額は約5,700万円となります。

また、23年3月の地下鉄・バスの乗車料収入についても、前年同時期比較で減収（地下鉄 約5%、バス 約12%）となるなど、今後も収支面において大きな影響があるものと見込まれます。

## 7 その他の対応

「総合的な震災対策の考え方」については別途配布資料のとおり